

現存唯一完本を初影印

# 江戸時代の市井の人々を魅了した教訓集

正直・儉約・勤勉・忍耐などの道徳観念を巧みな譬え話や諺で平易に説き聞かせた  
生活規範としての処世訓一大叢書

庶民が感動した言葉や語りを通して江戸の日常が身近に迫る！

江戸の処世訓

## あつめ草

ぐさ

全5巻・別巻1(解説・解題・索引)

小泉吉永(往来物研究家)編

[大空社 2013年5月刊]

「いまに通じる」庶民の生き方・考え方・人生観  
日本人の思考や行動の根底に流れる美徳の数々  
いまこそ呼び覚まし次代へ伝えたい。  
江戸の庶民の生きる知恵を実感する絶好の史料！



残部  
数組

2026.1

学術資料出版

大空社出版

www.ozorasha.co.jp



# 江戸の処世訓 あつめ草

全5巻・別巻1

小泉吉永編

「大空社2013年5月刊」

## 第1巻【初篇一〇冊】

御代の恩沢 脇坂義堂作、下河辺拾水画。手島和庵(建)序、寛政二年冬序・刊。

雨のはれ間 鎌田一窓(虚白齋)作。天明六年一月序、同年春刊。

勸孝見せばや 野村善応(自余居士)作・序、天明五年一月刊。

## 第2巻【二篇一〇冊】

売卜先生安楽伝授 脇坂義堂作。寛政八年初刊。

孝行になるの伝授 脇坂義堂作。享和二年二月刊。

銀のなる木の伝授 脇坂義堂作。享和二年二月刊。

開運出世伝授 脇坂義堂作。寛政十一年春刊。

鸚鵡問答 丹羽氏祐(令新亭)作・序。文化一〇年一〇月自序、文化一四年五月刊。

鬼は外 齊之作。看寛序、規矩二跋、安永一〇年春序・刊。

坐談随筆 手島堵庵(東郭子)作(口述)。有山玄統編(筆記)・跋、明和八年春跋・刊、同年一月刊。

## 第3巻【三篇一〇冊】

民の繁栄 脇坂義堂作。鎌田一窓(虚白齋)序、寛政七年冬序、寛政八年春刊。

目の前 鎌田一窓(虚白齋)作。手島和庵(建)序、天明五年一〇月序、天明七年冬刊。

勸善小語 山東指月作・跋。中井典信(利安・醉亭)序、安永八年一〇月刊記、安永九年一月序・刊。

## 第4巻【四篇一〇冊】

立身始末鑑 木南堂作。微堂跋、文化八年四月刊。

五用心慎草 脇坂義堂(布袋庵)作・跋。文化三年春跋・刊。

長命になるの伝授 脇坂義堂作。文化一四年四月刊。

案山子草 寺井方信作。北山画。手嶋和庵(建)序、中井典信(利安・醉亭)跋、寛政三年三月序、同年五月跋、同年夏刊。

夜話莊治 出駒子(滄浪舎一瓢)作・序。天休子跋、天明二年冬作、天明三年一月跋、同年春序・刊。

江戸の市井の人々の生き方、考え方を  
生活感覚の地平から直に感じ取れる  
一大叢書

庶民が感動した言葉や語りを通して  
江戸の日常が身近に迫る！  
《現存唯一完本》の影印復刻

## 第5巻【五篇一〇冊】

道の飢 鎌田柳泓(鵬)作。上河宗禊序、文政元年一〇月序、文政二年八月刊。

忠孝好人録 川田資深(雄琴)作・序。延享二年三月序、寛政一一年初刊。

御代の恩 加陽山欒光著、中井典信(利安・醉亭)編・序、楠亭画。天明七年作、同年一〇月序・刊。

丹堂遺稿(別本四篇) 荒木重範(忠庵・原質・丹堂)作、荒木良重(子賢)編・凡例。安雅陳序、明和六年凡例、明和七年一月序、同年二月刊。

心のちか道(別本四篇) 河久露宿作。天明二年刊。

福神教訓袋(抄)(別本五篇) 鈴木以敬作・序。享保一七年刊。

## 別巻【補遺・解説・索引】

《補遺》 丹堂遺稿(別本四篇) 荒木重範(忠庵・原質・丹堂)作、荒木良重(子賢)編・凡例。安雅陳序、明和六年凡例、明和七年一月序、同年二月刊。

心のちか道(別本四篇) 河久露宿作。天明二年刊。

福神教訓袋(抄)(別本五篇) 鈴木以敬作・序。享保一七年刊。

《解説》 所収全文献の解説、諸本書誌など。(50頁)

《索引》 影印部分に含まれる事項・人名・書名を、

諺・金言・道歌・經典引用などの語彙を含

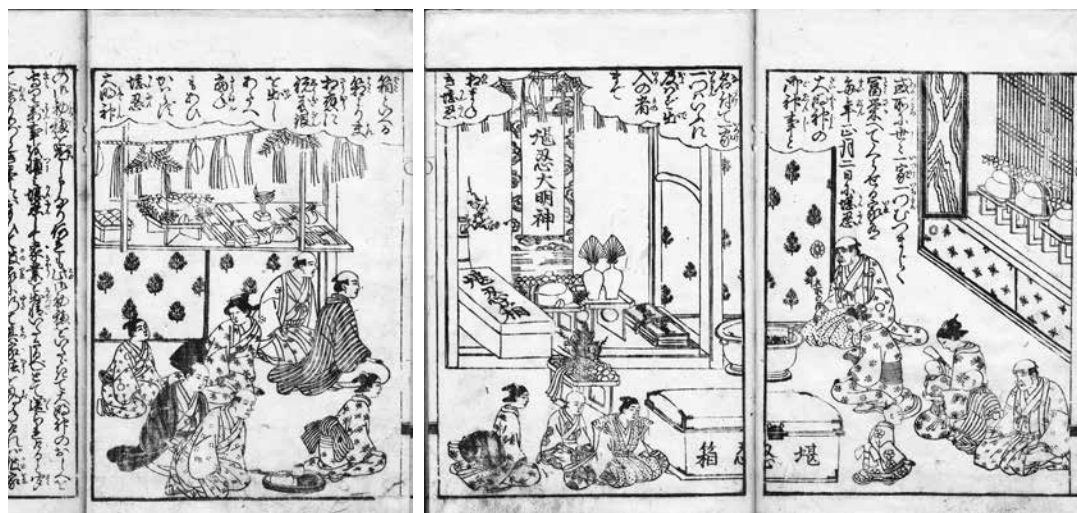
め広く採録。(75頁)

『あつめ草』は、庶民のための処世訓を平易に説いた石門心学書やその類書を各篇一〇冊ずつ集めた通俗教訓叢書で、天明年間から明治初年まで出版されたが、伝本の所蔵も稀で、その全貌が不明であった。今回初めてその完本五篇五〇冊(吉野屋仁兵衛板)を影印復刻する。江戸の市井の人々は、『あつめ草』の巧みな譬えや奇想天外な話題に思わず引き込まれ、笑い、涙しながら、いつしか日々の生活に実践的に役立つ様々な教訓を身につけていった。その多くの教訓は現代人にも親しく心に響くものである。

この貴重な史料が日本人や日本文化の研究に広く活用されることを願っている。

— 編者「刊行にあたり」要旨

## \* 商家の正月神事



■第1巻(初篇)より■ 初篇冒頭「阿津免草の序」に続けて、毎年正月2日に堪忍大明神の神事を執り行う商家の例を取り上げる。家内一統がそれぞれ儉約に努め、その節約で生じた剰余金を貯めておき、親類縁者などの困窮人を救うために使うという「堪忍箱」。実際の商家を取材した記事と考えられる。図は、堪忍箱を囲んで一統が揃った正月風景で、当時の正月飾りの様子が髣髴とされる。





文字を絵を  
読み解くほどに  
江戸の人々の心の中が  
染みこんでくる

## \*開運の秘訣「儉・忍・根気」

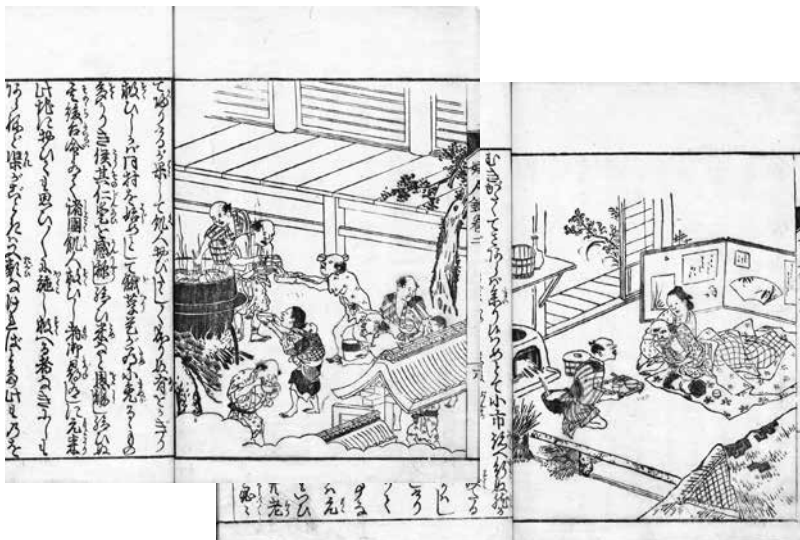
■第2巻（二篇）「開運出世伝授」より■

「開運出世伝授」の幟を掲げた翁が大名等の相談に応じる問答形式で、家業出精と「儉・忍・根気」の3つを守ることが開運の秘訣であることを諭す。儒仏その他の金言や愚頓漢と知賢漢、豊臣秀吉・韓信、瓢箪病、石部金吉等々和漢の故事を引いて質素儉約・堪忍辛抱・根気の要点や天運を得る法等、性根を入れて稼ぎ本心に従って生きるべきことを説く。図は甲師（かぶとし）の店頭風景、職人家庭の様子が分かる。



## \*長者の礎

■第4巻（四篇）「立身始末鑑」より■ 長者の礎となることを「始末・堪忍」「地獄箱」「身上を保つ工夫」「暇なく暮らす工夫」「諸入用の儉約」「本書を熟読すべきこと」に分けて説いた商人教訓書。図は、女性が遊ぶ歌かるたを例にとり、相手側の取札はよく見えるが、目の前の取札が案外見えないと教える。



## \*知足安分



■第3巻（三篇）「民の繁栄（にぎわい）」より■ 20部50巻に及ぶ義堂の著作中でも傑作の一つとされる。ある老人が語る様々な奇談・寓話を通じて、知足安分や修身・齊家などの道を平易に諭した道話で、各話の途中と末尾に金言名句や俚諺を鏤める。図は、愛児に先立たれた富裕な商人を救おうとやってきた高僧が「遺族の悲しみと亡き子の迷いを晴らすために黄金の仏像を作られよ。汝らが思うほどの金銀を目の前に出されよ」と助言する。愛児の供養のためにと差し出された小判25両と銀5貫目を、高僧は金槌で一気に叩き潰そうとするが、家族は驚き慌てて残念がったため、高僧は「なんと迷いの深いことよ」と激怒し、執着や迷いを戒める。

## \*孝行・忠信・美談

■第5巻（五篇）「忠孝好人録」より■

伊予大洲藩五代藩主・加藤泰温（やすあつ）から褒賞された者など大洲領内の孝悌忠信の人々約80人の伝記を、役所の記録や各地での現地取材を通じてまとめたもの。左図は、蝗災（こうさい）で田畑が荒れ果て大飢饉となった時に、自らもギリギリの生活をして多くの人々を救った美談を紹介、右図は、貧家ながら親孝行に尽くした孝子譚を紹介したもの。

# 江戸の処世訓 <sup>ぐさ</sup>あつめ草

残部  
数組

2026.1

全5巻・別巻1(解説・解題・索引)

小泉吉永(往来物研究家)編

[大空社 2013年5月刊]

●  
特  
色  
●

1. 詳細が未知であった稀少本江戸時代原典史料を一挙影印刊行。
2. 現存唯一の完本全5篇 50冊(吉野屋仁兵衛板)の全貌を初めて集成。
3. 心学(石門心学)の教化・普及・受容研究に新たな資料を提示。
4. 心学と儒学・仏教・神道との関係を具体的に分析できる好資料。
5. 町人・商人の経済生活と倫理観が日常感覚で語られた貴重文献。
6. 江戸期の市井の人々の暮らしぶり、日常生活・慣習・風俗の様が細かに窺える多数の挿絵。
7. 譬喩・教訓歌(道歌)・道話・説話・寓話・金言・俚諺など、日本語(口語・文語)の表現・語彙・話法・レトリック研究に有効な言語資料。
8. 近世から近現代へ底流する日本人の心性・思想探究に不可欠な重要資料。
9. 日本人の思考と行動、社会・倫理・道徳、教育研究に必見必読の重要文献。
10. 研究に裨益する補遺史料、解説・解題、索引を付載。



日本史(江戸時代、近世、近現代)

日本教育史(倫理・道徳・教化・修養)

日本思想・宗教

(石門心学・国学・儒学・儒教・仏教・神道)

社会生活

(規範・通念・慣習・常識・教訓・家訓・環境・奉仕・福祉)

経済・労働

(商業観・商人観・職業倫理)

言語・文芸

(日本語・俚諺・レトリック、講説・説教、説話・和歌、道話・道歌)

江戸をめぐる  
あらゆる分野に

[体裁] A5判・上製・クロス装・総約2550頁

ISBN978-4-283-00824-3(セット)

揃定価(本体92,000円+税) \*分売不可

学術資料出版

大空社出版

